

医学研究科看護学専攻（博士後期課程）

2026 年度 募集要項

CONTENTS

1. アドミッションポリシー	1
2. カリキュラムポリシー	1
3. ディプロマポリシー	2
4. 修業年限	2
5. 募集分野と募集人員	2
6. 出願資格	3
7. 出願方法	4
8. 受験料	4
9. 出願期間・入学試験日程	5
10. 試験科目・試験時間	5
11. 選考方法	5
12. 事前相談	5
13. 合格発表	6
14. 入学手続	6
15. 奨学金制度	6
16. 試験場・地図	7

個人情報の取り扱いについて

出願および入学にあたって提出された氏名、住所、書類などの個人情報は学校法人慈恵大学個人情報保護に関する規程に従って管理され、入学試験および入学後の教育のために利用されます。

1. アドミッション・ポリシー（入学者に関する受け入れ方針）

本博士後期課程のカリキュラムを修得し、修了時に求められる能力を達成できる学生として、入学時に以下の人を求めています。

1. 専攻する看護学分野における高い知識を有している者
2. 看護における課題解決のための研究に取り組む能力がある者
3. 将来、看護学教育者、看護学研究者、看護管理者として社会に貢献する意志がある者

入学者選抜試験では、看護学専攻分野における高い知識を看護専門科目の筆記試験と書類審査で評価します。また、看護における課題解決のための研究に取り組む能力は、これまでの学会発表や論文を含む書類審査、看護専門科目と英語の筆記試験および面接試験で評価します。さらに、将来、社会に貢献する意志は面接試験で評価します。

2. カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施の方針）

看護学専攻博士後期課程のカリキュラムは、教育理念、教育目標、ディプロマポリシーに基づいて「共通科目（必修）」「共通科目（選択）」「専門科目（演習含む）」「特別研究（必修）」で編成する。

1. 知識や技術を創造する研究能力を育成するために、共通必修科目として「看護哲学概論」、共通選択科目として「看護学研究論」「応用統計学」を配置する。また、専門選択科目として「基盤創出看護学特講」「基盤創出看護学演習」、「先進治療看護学特講」「先進治療看護学演習」、「予防推進看護学特講」「予防推進看護学演習」、「地域包括看護学特講」「地域包括看護学演習」を置く。さらに、特別研究必修科目として「看護学特別研究Ⅰ」「看護学特別研究Ⅱ」を配置する。
2. 看護哲学を追求する姿勢を育成するために、共通必修科目として「看護職生涯発達論」「看護哲学概論」を、共通選択科目として「看護学研究論」を配置する。また、専門選択科目として「基盤創出看護学特講」を置き、さらに特別研究必修科目として「看護学特別研究Ⅰ」を配置する。
3. 国際的・学際的に協働し活躍する能力を育成するために、共通必修科目として「国際学術コミュニケーション論」と、特別研究必修科目として「看護学特別研究Ⅰ」「看護学特別研究Ⅱ」を配置する。
4. 組織を変革する能力を育成するために、共通必修科目として「看護職生涯発達論」を、専門選択科目として「基盤創出看護学演習」「先進治療看護学演習」「予防推進看護学演習」「地域包括看護学演習」と、特別研究必修科目として「看護学特別研究Ⅱ」を配置する。
5. 人材を教育する能力を育成するために、共通必修科目として「看護職生涯発達論」、専門選択科目「基盤創出看護学特講」と、特別研究「看護学特別研究Ⅱ」を配置する。

3. ディプロマ・ポリシー（学位授与に関する方針＝育成する人材）

本博士後期課程では、所定の修業年限を在籍し、修了要件となる単位を取得するとともに、博士論文の審査及び最終試験に合格し、下記の能力と姿勢を有するものに学位を授与します。

1. 国民の健康上の課題を解決するために新たな知識や技術を創造する研究能力
2. 看護学の学識者として看護哲学を追究する姿勢
3. 多様な学問分野の研究者や実践者と国際的・学際的に協働し活躍する能力
4. 看護の責任と役割を果たすために組織を変革する能力
5. 新たな知見を次世代に伝え人材を教育する能力

4. 修業年限

看護職者の資質向上に貢献する目的で「大学院設置基準」第14条に定める「教育方法の特例」を用いて、昼夜開講、土日開講、集中講義を導入するとともに「大学院設置基準」第15条（大学設置基準第30条の2を準用）を用い、**修業年限を3年**とします。なお、長期履修制度の利用も可能です。

5. 募集分野領域と入学定員

専攻名	専門分野・領域	研究指導教員	入学定員
看護学専攻 博士後期課程	実践開発看護学分野 ・基盤創出看護学領域	田中 幸子教授 濱田 真由美准教授	3名
	・先進治療看護学領域	望月 留加准教授	
	・予防推進看護学領域	梶井 文子教授 松永 佳子教授	
	・地域包括看護学領域	北 素子教授 嶋澤 順子教授	

6. 出願資格

入学志願資格者は、下記のいずれかに該当した上で、看護師の免許を有し、看護学および看護実践の場における課題を解決するための、より高度な研究力および教育力、さらに管理力の修得を目指す者とします。

- 1) 修士の学位や専門職学位を有する者、および入学年3月までに学位取得見込みの者（学校教育法第102条第1項）
- 2) 外国において修士の学位や専門職学位に相当する学位を授与された者及び入学年の3月までに学位取得見込みの者（学校教育法施行規則第156条第1号）
- 3) 外国の学校が行う通信教育を我が国において履修し、修士の学位や専門職学位に相当する学位を授与された者および入学年3月までに学位取得見込みの者（学校教育法施行規則第156条第2号）
- 4) 日本において、外国の大学院相当として指定した外国の学校の課程（文部科学大臣指定外国大学（大学院）日本校）を修了し、修士の学位や専門職学位に相当する学位を授与された者および入学年3月までに学位取得見込みの者（学校教育法施行規則第156条第3号）
- 5) 国際連合大学の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者、および入学年3月までに学位取得見込みの者（学校教育法施行規則第156条第4号）
- 6) 大学などを卒業し、大学、研究所等において2年以上研究に従事した者で、大学院において修士の学位を有する者と同等の学力があると認め、本学大学院における教育を受けるにふさわしいと大学院委員会（博士後期課程）で認めた者（平成元年文部省告示第118号）
- 7) 本学大学院において、個別の入学資格審査により、修士の学位を取得した者と同等以上の学力があると大学院委員会（博士後期課程）で認めた24歳以上の者（学校教育法施行規則第156条第7号）

7. 出 願 方 法

出願書類は自筆で、黒のボールペンで記入してください。

(一部受験者本人作成のリスト提出を認めている書類もあるので注意してください。)

出願書類

出 願 書 類	提出上の注意事項	様 式
入学願書	様式 1－①②、様式 2－①②③の全てを記入してください。 様式 2 は、ワードで作成し、別添としても構いません。	様式 1 様式 2
推薦状(任意)	本大学院所定用紙あるいはそれに準じる書式で提出してください。 (提出は任意です。提出しないことで試験が不利益になることはありません。提出された場合、面接の参考にします。)	様式 3 またはそれに 準じる書式
在職証明書(任意)	本大学院所定用紙を使用してください。	様式 4
受験票	受験票(返信用封筒)に410円分の切手を貼付してください。	
修了(見込可)証明書	大学院修士課程または博士前期課程の学長または学校長 等が証明し、厳封したもの。	
成績証明書	最終学歴出身学長等が証明し、厳封したもの。	
看護師等免許証の写し	A4 サイズに縮小コピーしてください。 外国の看護師養成機関の場合は、当該国の国家資格である 旨の証明を添付してください。	
主要筆頭論文 等	1 編以上、別刷りまたはコピーしたもの。 修士論文の場合は A4 サイズ 4 枚程度に要約してください。	
受験料振り込み 受付証明書	同封の受験料振込依頼書を使用してください。	

1. 出願書類は同封の封筒を用いて、志願者の氏名、住所、郵便番号、電話番号を明記し、**速達書留**で郵送してください。(締切日必着)
2. 入学試験日の3日前までに受験票が届かない場合は、看護学専攻事務室までご連絡ください。
3. 提出された出願書類は、いかなる理由があっても返却いたしません。

8. 受 験 料

1. 受験料は30,000円です。
2. 受験料は同封の受験料振込依頼書を使用して、指定銀行の口座に振り込んでください。
3. 受験料振込受付証明書に銀行の収納印を受け、出願書類と一緒に郵送してください。
4. 既納の受験料は、いかなる理由があっても返却いたしません。

9. 出願期間・入学試験日程

1. 出願期間 2025年7月17日(木)～8月18日(月)(必着)
2. 入学試験日 2025年9月6日(土)

10. 試験科目・試験時間

8:50～9:00	9:00～10:30	10:50～12:20	13:30～
受験上の注意	看護専門科目	英語	面接

午前8時50分までに集合してください。

11. 選考方法

看護専門科目、英語、面接試験および書類審査により総合判定します。

1. 看護専門科目……「共通問題」と「専攻する領域の問題」
2. 英 語………英和辞書、和英辞書、英英辞書のみ持ち込み可とします(電子辞書は不可)
3. 面 接………これまでの経験・研究を踏まえて将来社会に貢献する意志を含め、研究課題について約10分間口頭プレゼンテーションを行います。

12. 事前相談

出願にあたり、事前に相談を受けてください。事前相談を希望する指導教員については、同封の研究指導教員を参考に決めてください。

基盤創出看護学領域	田中 幸子教授	濱田 真由美准教授
先進治療看護学領域	望月 留加准教授	
予防推進看護学領域	梶井 文子教授	松永 佳子教授
地域包括看護学領域	北 素子教授	嶋澤 順子教授

1. 出願者は、事前相談票を本学のホームページからダウンロードし、郵送、メール添付のいずれかにて看護学専攻事務室まで提出してください。相談日、相談方法については、後日連絡します。
2. 事前相談票提出先
住 所：〒105-8461 東京都港区西新橋3-25-8
東京慈恵会医科大学大学院医学研究科
看護学専攻博士後期課程 事前相談受付係
電 話：03-3433-1111(内線2311)
E-mail：nsdoctor@jikei.ac.jp
3. ホームページ：<https://www.jikei.ac.jp/graduate-school/>
4. 期 間：2025年7月17日(木)～8月18日(月)
5. 受験及び修学上、合理的配慮が必要な受験生、あるいは基礎疾患を有する受験生は、相談を受けつけますので、事前にお問い合わせ下さい。

13. 合格発表

1. 合格発表は**2025年9月18日（木）午後1時**に、本学ホームページに掲載します。
2. 合格者には、合格通知書と入学手続きの案内を速達で郵送します。
3. 合格発表の問い合わせには一切応じられません。

14. 入学手続

合格者は入学手続きの案内に従って手続を行ってください。定められた手続を完了しない場合、入学の資格を失いますので十分注意してください。

1. 学納金

- 1) 入学金は 200,000 円、授業料は年額 600,000 円です。
- 2) 授業料は分納も可能です。
- 3) 長期履修制度の利用者は 3 年間の授業料で 4 年間学修できます。

修 業 年 限						
	1 年		2 年		3 年	
入 学 金	200,000					
授業料（年間）	600,000		600,000		600,000	
分 納 （前期／後期）	500,000	300,000	300,000	300,000	300,000	300,000

2. 入学手続および学納金納入期限

2025年10月25日（土）午後3時までに完了してください。

3. 入学手続後の入学辞退にともなう納入金の返還

2026年3月27日（金）午後3時までに入学辞退を文書にて申し出た方に限り、入学金 20万円を除いた納入金を返還します。なお、この期限を過ぎて入学辞退を申し出ても納入金は返還いたしません。

4. 本学の看護学科・看護専門学校卒業生および看護学専攻博士前期課程（修士課程）修了生、本学勤務者（看護学科・看護専門学校・附属病院を含む）は、入学納入金の優遇制度があります。

15. 奨学金制度

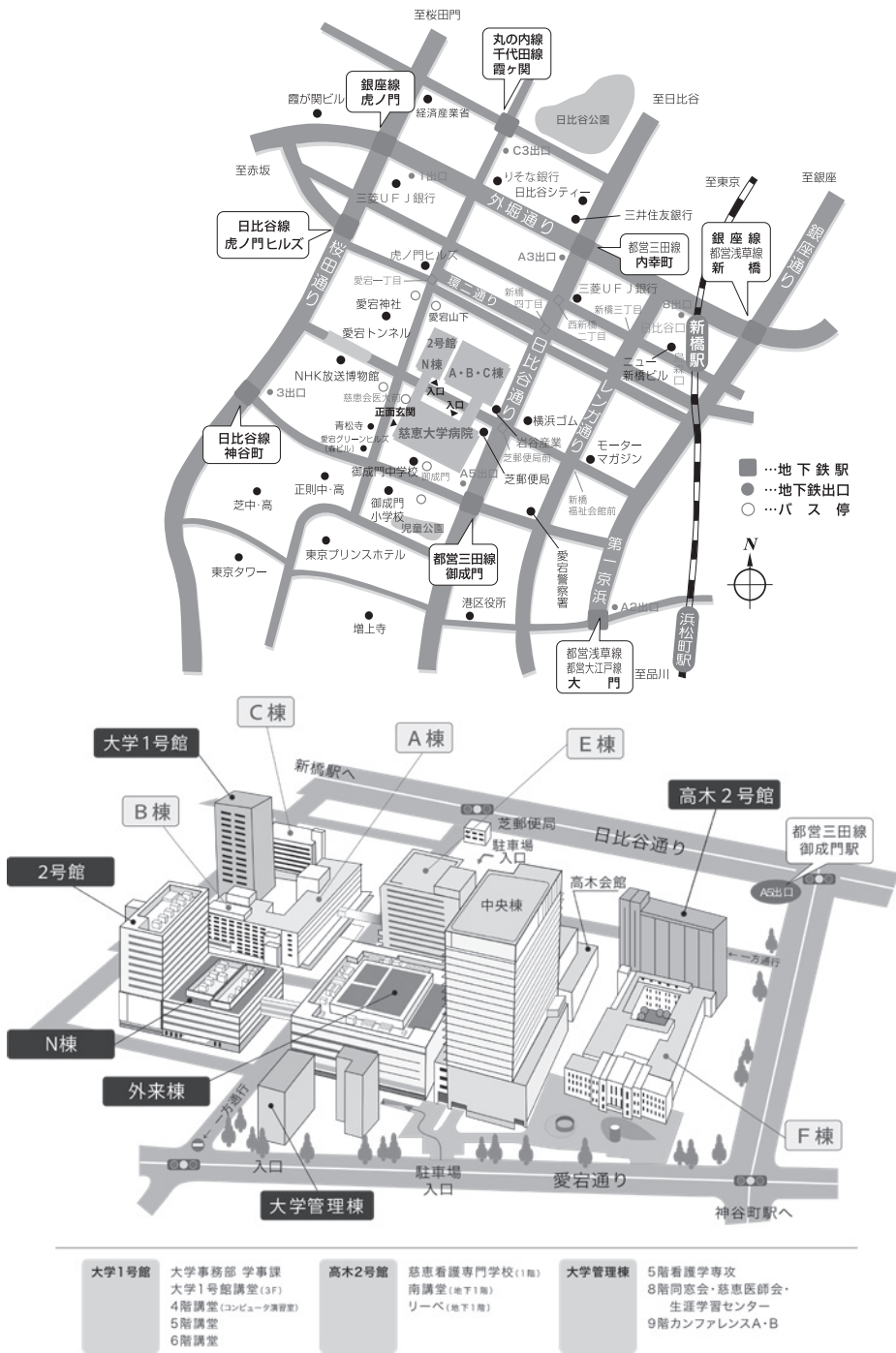
日本学生支援機構、東京都看護師等修学資金などの奨学金へ応募できます。

16. 試験場・地図

○入学試験会場

東京慈恵会医科大学・大学管理棟

東京都港区西新橋 3 丁目 25 番 1 号



■ J R

新橋駅下車

徒歩約12分

■地下鉄

都営三田線

東京メトロ日比谷線

東京メトロ銀座線

御成門駅下車

神谷町駅下車

虎ノ門駅下車

A 5 出口 徒歩約 5 分

3 出口 徒歩約 5 分

1 出口 徒歩約10分

東京慈恵会医科大学

大学院医学研究科看護学専攻事務室

〒105-8461 東京都港区西新橋 3 丁目25番 8 号 電話03-3433-1111（内線2311）

1 基盤創出看護学領域 研究指導教員

田中 幸子 教授

研究計画に沿って看護労働や看護職の人材確保に関する政策過程の歴史の変遷を、公文書、公的データ、オーラルヒストリー等を用いた分析を学修する。さらに現代の看護労働に関する実態調査、及び国内外の潜在看護師の復職支援、就労継続のための健康的な職場環境、中高年のセカンドキャリア等の看護労働政策研究を踏まえて現代の都市型の医療提供体制に相応しい看護労働政策のあり方を考究し、博士論文を作成し自立して研究を推進できる能力を修得し、教育を担い得る能力と共に看護学の発展に寄与する能力を養う。

濱田 真由美 准教授

国内外の文献を通じて、看護について哲学的に探究する方途を学修し、関心のある現象について様々な立場から考究することのできる素養を養う。また、医療や女性を取り巻く不平等・権力関係、知がつくられるダイナミクスとその影響を理解し、臨床課題に取り組むための質的研究方法論について学びを深める。これらを通じて、看護学の発展に寄与する研究者として自立した研究活動、教育を行うための能力と学識を養う。

2 先進治療看護学領域 研究指導教員

望月 留加 准教授

がん患者や家族の生活を支援し、生き方を選択していくプロセスに寄り添うために、セルフマネジメントや心理社会的苦痛に対する支援モデルの開発等をケア評価のための指標の開発も含めて研究を行う。また、今後のがん医療・看護に必要な先駆的分野に関わる現象の探求や実践的研究につながる質的研究についても学修し、博士論文を作成し自立して研究を推進できる能力を共に、教育を担い得る能力、看護学の発展に寄与する能力を養う。

3 予防推進看護学領域 研究指導教員

梶井 文子 教授

老年期の健康、家族ならびに学際的な課題について、実践的に解決できる研究成果を目指すため、関係する諸理論や老年医学・看護学・他の学際的な知識を活用し、国内外の先行研究から研究課題を明確にし、多変量解析を用いた統計学的手法や質的帰納的研究方法を組み合わせる方法を用いて、研究の実践課程を踏まえて、博士論文を作成し自立して研究を推進できる能力を修得し、教育を担い得る能力と共に、看護学の発展に寄与する能力を養う。

松永 佳子 教授

母性看護学（生涯を通じた女性の健康）の対象である女性とその家族の健康を促進するための支援方法について日本でのエビデンスが提示できるような研究方法（介入をアウトカム指標）を吟味する。そのうえで、研究課題に応じたデータ収集、分析方法を用いて研究を行い、博士論文を作成して、自立して研究を推進できる能力を修得し、教育を担い得る能力と共に看護学の発展に寄与する能力を養う。

4 地域包括看護学領域 研究指導教員

北 素子 教授

在宅療養者とその家族のQOLの向上に資する新たな支援モデルとアウトカム評価指標の開発につながる研究課題について、質的帰納的研究法と探索的・確証的因子分析法等の統計学的手法を組み合わせ研究を行う。研究成果は国内外の学術誌に発表し、自立して研究を行い、教育を担い得る能力と共に在宅看護学の学問的發展に寄与する能力を養う。

嶋澤 順子 教授

在宅精神障害者の地域生活継続を促す看護援助を障害者のセルフケア能力を引き出す側面から行う方法に関する研究課題を、公衆衛生看護学に関する理論的枠組みを活用して、質的帰納的研究方法あるいは量的研究方法など研究課題に即した研究手法を適切に用いて研究の実践を行い、博士論文を作成し自立して研究を推進できる能力を修得し、教育を担い得る能力と共に看護学の発展に寄与する能力を養う。